

## 平成 25 年度第 2 回島根県公共事業再評価委員会質疑応答

件名	平成 25 年度 第 2 回島根県公共事業再評価委員会
日時	平成 25 年 8 月 1 日 (木) 7 : 4 0 ~ 1 6 : 3 5
場所	抽出地区 (出雲市、松江市)
出席者	<p>●委員 安部康二、岡清二、 来海公子、木村和夫、宗村広昭、高田龍一、藤山晶子、正岡さち、和田登志子 (敬称略)</p> <p>●県 土木部 技術管理課長、河川課 G L、道路建設課 G L 他</p>
審議	1. 抽出地区の現地調査 (出雲市、松江市)

(調査箇所)	1 広域河川改修事業	新内藤川
	2 地すべり対策事業	唐川 2
	3 一般県道矢尾今市線	大塚工区
	4 広域幹線改修事業	佐陀川
	5 総合流域防災事業	忌部川
	6 一般国道 4 3 2 号	東岩坂バイパス
	7 地すべり対策事業	三谷地区 (過年度審議地区現地視察)

### 質疑応答

#### ◆新内藤川広域河川改修事業

(委員) 赤川の事業が遅れた原因は？

(県) 旧 J R 大社線の敷地に沿って、新たに河川を付け替えた関係で調整に時間を要した。

(委員) 今まで実施した改修の効果は？

(県) H 1 3 以降、浸水が少なくなっている。

(委員) S 6 0 年度事業採択、“何故長期化しているか？”という疑問はあるが、市街地での工事であり、現在も 1 0 ヶ年計画を策定して 1 3 億の事業費をつぎ込んでいるので、早期完成を目指して進捗に努めてほしい。

(委員) 県合庁付近の浸水は解消されるか？

(県) 県の管理区間は H 2 6 年完成予定であり、それに合わせて出雲市が都市下水路の整

備をH26年に着手する。それにより合同庁舎付近の冠水は解消される。(県の重点整備区間L=1000m)

(委員) コスト縮減は？

(県) 掘削土を土堤に利用。今後は発生土が増えてくるので残土処分が課題である。

(委員) 重点区間とは？未着手区間と考えて良いか？

(県) 未着手区間でも暫定計画での流下能力がある区間は除いている。

(委員) 流下能力をあげるには河床掘削しかないのか？

(県) 河川勾配がゆるく、潮位が影響するため川幅を拡げることが有効である。？

#### ◆地すべり対策事業 唐川2

(委員) H9年7月被害のその後の被害は？

(県) 擁壁の傾き、家屋のひび割れ増が見られている

(委員) 被害想定区域内の保全対象で住居13戸とあるが人数は？

(県) 1戸あたり2～3人として26～36人程度

(委員) 地すべりでの唐川2の位置づけは？

(県) 地すべりは県下で10か所程度実施している。地すべりの優先順位はいずれも高く必要額を予算化している。

(委員) 地形的に起きやすいか？

(県) 隣接の地区もあり、地すべり地形といえる。

(委員) お茶の生産高は？

(県) この地区の面積換算で約1800万円/年である。

(委員) 一般に地すべりの完成までどの程度かかるのか？

(県) 地すべりブロック数にもより一概には言えないが15年位かかっている。

(委員) ブロックの設定は？

(県) クラック等地形の状況を調査して決めている。

(委員) 最近雨が降るが大丈夫か？

(県) ゲリラ豪雨のため、水位は上がっていない。

#### ◆一般県道矢尾今市線 大塚工区

(委員) 浸水区間の解消とはどういうことか。

(県) 日下矢尾川と堀川に挟まれた区間は路面高が低く、度々浸水し通行止めとなる。バイパス整備により、車両の多くはバイパスを通過することとなるが、バイパスは浸水しない高さで計画されているため、浸水による通行止めは解消される。

(委員) (一) 矢尾今市線大塚工区の完成時期はいつか。

(県) 平成30年度の予定である。

(委員) 工事遅延の理由は何か。

(県) 高架橋で整備することについて、地元との調整に時間を要した。地元は高架橋による日照問題、特に稲作への影響を懸念したが、高架橋による影響は1時間程度しかないことを丁寧に説明し、地元からの理解を得た。

(委員) 用地買収の状況はどうか。

(県) 用地買収への理解は得られており、稲刈り後に用地測量を予定している。

(委員) 高架橋ではなく、一畑電鉄の地下を整備する案は検討しなかったのか。

(県) 降雨時に通行止め等の問題が生じること、地盤が軟弱であることから、採用案としなかった。

(委員) 一畑電鉄の南側に住宅があるが、高架橋が住宅の横に建設されることについて住民から反対はなかったのか。

(県) 住宅と同じ高さの側道が整備されることとなる。高架橋との離隔が確保されるため、住民からの反対はなかった。

(委員) 文化財は存在するのか。

(県) 東林木バイパスとの交差点には下澤遺跡が存在するが、昨年試掘調査を実施した結果、本調査は不要とのことだった。一畑電鉄より南側には高浜Ⅰ遺跡が存在しており、今年度試掘調査を実施する予定である。

#### ◆広域河川改修事業 佐陀川

(委員) S47規模の浸水の防止を図ることを目的としている。

なぜ、この橋を落とす必要があるのか？

(県) 河川の拡幅のため

(委員) S 4 8 年着手しながらH 6 に用地着手している。その間、何が問題なのか？

(県) 佐陀川は S47.7 洪水で大きな被害があったことから、地元から堤防と護岸整備の要望があった。S47.7 の洪水に対応するには、堤防の嵩上げや護岸だけでは洪水に対応出来ないことから河川の拡幅が必要となったため、地元で合意を求めたが、計画に対する同意が得られず、実際の現地着手が H6 年度になったところである。事業採択当時は、宍道湖淡水化計画が進行中、地域の農業振興に対する気運は高く、改修工事による農地減少に対する抵抗があった。また、沿川の圃場整備や県道、市道等の事業調整に時間を要した。

(委員) 現在の地元の状況は？

(県) H 2 4 期成同盟会が結成され、事業の要望がなされている。

(委員) 工事の進捗度 11%とは？

(県) 鹿島マリーナ周辺の堤防、護岸部分とマリーナ下流約 400m の左岸暫定堤防である。

(委員) 第 4 回会議までに、「H 6 着手しており、遅延した理由を説明されたい。」、「期成同盟会に規約、要望内容を説明されたい。」

#### ◆広域河川改修事業 忌部川

(委員) 上流区間の氾濫の原因は？

(県) 農業用取水堰のせき上げによる溢水により、氾濫すると考えられる。改修計画では、堰を廃止し、ポンプで整備する。計画の流量を流すには、堰の廃止と河川の拡幅が必要である。計画流量を安全に流下するよう整備したい。

(委員) 親水性は

(県) 下流の区画整理区間内に親水護岸を整備している。今後整備する箇所は、右岸の山付けはホタルが飛翔するような場所でもあるので手を加えない計画である。また、近くに中学校などもあり、地域の人々が散策できるよう堤防や護岸の整備を考えたい。

(委員) S 4 7 年以降の浸水被害はどうか？

(県) H18 年に宍道湖で大きな洪水があったが、忌部川ではなかった。

(委員) 氾濫しても農地である。整備の意味があるのか？

(県) 上流の氾濫が下流の商業地区、住居地区に影響を与える恐れがある。

(委員) 開発の可能性は？

(県) 具体的にはないが、隣接の開発状況から可能性は高いと考えている。

◆一般国道432号 東岩坂バイパス

(委員) 大庭工区の整備は？

(県) 平成30年代の予定である。

(委員) ループとは？

(県) 高低差が100mぐらいあり、ループ橋を計画している。

(委員) 冬季の通行止めは？

(県) 通行止めはない。除雪や融雪剤を散布している。

(委員) 今後ループ部分を含めて、実施設計でコスト縮減を図りながら実施してほしい。

(県) はい。